

[曲名] Nelly Album I Dolce Mestizia II Fiorellino Gentile III Mazurka Serenata IV Valzer Cantablile

ネリーアルバム

(1)甘き憂愁 (作品235番) (2)優しき小花 (作品234番)

(3)セレナータ風マヅルカ (作品188番) (4)歌謡調ワルツ (作品192番)

[曲種]

[作曲者] Carlo Munier

カルロ・ムニエル

[編曲者]

カルロ・ムニエルは1859年7月15日ナポリに生まれ、1911年2月10日フィレンツェに逝いたマンドリニストで作曲家。

ナポリの著名なマンドリン製作家パスクワーレ・ヴィナッチアはムニエルの大伯父に当たり、折しもマンドリン音楽勃興の時で彼がマンドリンに対して異常な愛を持つに至ったのは偶然ではなかった。

初めマンドリンの教則本の著者として又先覚者の一人であるCarmine de Laurentisに就いてマンドリンとギターを学び

15才の時ナポリ音楽学校に入りGaliero及びCesi(1845-1907)にピアノをD'Arienzo(1842-1915)について作曲法を修め、

彼の音楽的生涯の基礎を固めた。

更に19才で聖ピエトロ・ドマイエラの音楽学校を卒業する時作曲法に一等和声法に二等を得た。

この頃ヴェルディのトラヴィアータとベルリーニのプリターニを二つのマンドリン、マンドラ、ピアノの四重奏曲に編曲して出版したのが

彼の曲の公にせられた最初のものである。

1882年彼はフィレンツェに移り、以後此処を本拠として演奏家、作曲家、指導者として活躍した。

1890年最初のプレクトラム四重奏団を組織し、メンバーはLuigi Bianchi (第一マンドリン) Guido Bizzari (第二マンドリン)

Riccardo Matini（マンドラ）彼Munierがリュートで彼等は皆夫々の楽器の優れた演奏家であり作曲家であった。

之のイタリア各地での演奏は非常な歓迎を受けた。

1892年ジェノヴァに開かれた最初のマンドリンギター国際コンクールには彼は演奏家並びに作曲家として金牌と賞状を得、

更に1898年トリノのコンクールにも金牌を獲得した。

彼のマンドリン界での地位は明らかに先輩のBertucci、Bellenghi、De Cristofaroを凌駕したものであった。

そして1906年モナコに大規模なコンクールが開かれた時は遂にイタリア側の審査員に推された。

マンドリン楽の興隆につれてイタリアの各地には無数のマンドリン合奏団が生まれたが、その中フィレンツェの「皇后マルゲリータマンドリン合奏団」は最も優れた奏者を集めた団体であったが、

初めBertucciやMatiniが当たっていたが、Munierも遂に其処の指揮者となった。

1909年彼はソムマリヴァ・ピエルノの有名な王城で時のイタリア皇帝ヴィットリオ・エマヌエーレ三世の御前に自作の二調の前奏曲と第一マヅルカを演奏し、

御感斜ならず握手を賜ったが、1911年春ベルギーを訪れた帰途彼の友人でマンドリニストとして知られたローラン・ファンタウツィをマルセイユに訪れ、

種々マンドリン音楽の発展普及について語り合ったがフィレンツェに帰るや病に倒れ、妻と二人の娘とを貧窮な生活裡に残した儘永眠してしまった。

まことに彼こそは斯楽に殉じたとも云うべき人で、マンドリン音楽の父と仰がれるのも当然である。

以上は経歴の概要であるが、作品に就いては次の機会に触れる。

本曲ネリーアルバム中の1. 甘き憂愁は1899年トリノのイル・マンドリーノからDolce Malinconiaとして単独出版（同一内容）

1900年同所から歌謡調ワルツが第一第二マンドリン及びギターの形で出版、

後になって四曲が組み合わされてフィレンツェのモーリ・エ・ペトレリから出版された。

編成は第一第二マンドリン、マンドラ、マンドロチェロ及びギターで我娘に贈るとある。

作品221番セレナテルラには我が娘Nellyに贈るとある故本曲ネリーアルバムもその名を採ったものと思われるが、

フィリップ・ボーンの記述するところによれば、娘はエルヴィラ、及びルイジアの二人で、いずれに該

当するのであろうか。

本曲の著作権はPetrelliからフィレンツェのLapini（ムニエル大教則本出版）に継承され1934年以来Porticiのプッチが更に継承した。

いずれも演奏技術的に難しいものはないが、2、4、等は初期のイタリアマンドリン合奏曲の代表的な味わいを持つもので

且つムニエルの内蔵するよいものが溢れている。

甘き憂愁の冒頭、其他ギターの扱い方が極めて易しくしてあるのでピアノ伴奏譜を参照して、より効果的に改めた。

1969年11月15日発行

イタリアのマンドリンアンサンブル佳曲百曲集第二集より